

ロータリーが、今、直面している問題

— 日本におけるロータリーを中心に —

RI会長代理 川尻 正輝



本稿は10月30日のRI会長代理の現状報告のために書かれた原稿をもとにしました。各クラブで参考にさせていただきたいので、そのままの掲載をお願いしました。(月信編集者)

- 本年度の第2730地区の地区大会が、多数のロータリアンが出席されて、盛大に開催されましたことに感謝申し上げます。
- 皆さんの第2730地区は、歴史のある多くのクラブがあり、本年の地区大会に参加しまして、この地区が、鹿児島県と宮崎県の2つの県で構成されながら、ロータリアン全員の友情と寛容の精神を持って地区を運営されており、模範的な地区だと思えました。今後、益々の発展を期待いたします。また私と家内に、このような機会を与えていただきました三木靖ガバナーとご出席の皆さんに心からお礼を申し上げます。
本年度の皆さんの地区大会が、盛大で、且つまた有意義に参加したロータリアンに感動を与える立派な地区大会であったことを、RI本部に報告いたします。そして、この地区大会の最後の貴重な時間を、皆さんと一緒に、「今、日本のロータリーが、直面している問題」を一緒に考える機会にしたいと思えます。
- ところで、今、皆さんのクラブでもいろいろの問題に直面されておられると思いますが、今日は皆さんと次の問題を考えてみたいと思えます。
 - ① 親睦 (Fellowship) と奉仕 (Service) は、100年でどう変わったか。
— そのバランスについて。
 - ② 例会の役割は何か。 — 「一業種一会員制の原則」は今、どうなったのか。
— 「例会は、毎週どうして開催する必要があるのか。」
 - ③ 日本のロータリークラブでは、どうして会員数が減少しているのか。
— その原因は何か。その対策はあるか。
 - ④ 職業奉仕、特に職業における倫理化運動は、今、どうなったのか。
 - ⑤ 国際ロータリー (RI) とロータリー財団 (非営利法人) の多様性について。
 - ⑥ 国際ロータリーの多様化と日本のロータリーの特殊性について。

1、親睦 (Fellowship) と奉仕 (Service) は、どう変わったか

ロータリーは「親睦」(Fellowship) と「会員の互惠」を目的として1905年にシカゴで創立された多くのロータリアンは考えていますが、ポール・ハリスは、どう言っているかといえば、自分は他所者でシカゴの町に友人がいなかったのが「淋しかったこと」がロータリークラブを創立する動機であったと言っております。

だから「職業上お互いに信頼しあって取引できる仲間のクラブを結成した」ということである。

ポール・ハリスの説明によれば、ロータリーは「親睦」が中心であったのが、長い論議の末、現在のロータリーではRI定款や細則の中から「親睦」の文字を見つけ出すことが難しくなっております。

ところで今、日本のロータリーは、例会を始めいろいろの会合や奉仕活動が形式的になって少しも楽しくなくなったという意見があります。これは親睦がロータリー全体の中で軽視されて、クラブの運営が、ただ義務的になってしまっているからです。

日本語の友情という意味はどういうことでしょうか、ドイツの詩人シラーは「友情は楽しみを2倍にして苦しみを半分にする」と言っております。また日本の徳富蘇峰は、竹馬の友は命も共にできる間柄であると言っております。したがって楽しくなければロータリーではないということを取り戻す必要があります。そうでなければ日本のロータリークラブは、これから経済的な環境が回復しても、また社会構造が改善されても、会員の減少を防止することはできないのではないのでしょうか。

ところが「奉仕」の文字は、手続要覧のいたるところに使われておりますので、ロータリーから最早「親睦」はなくなってしまったのではないのかというロータリアンもおります。そしてロータリーは「奉仕」だけの団体になったのかという意見も聞きます。しかしロータリーは、「親睦」と「奉仕」が車の両輪であって、これがバランスよく保たれているところにロータリーの発展・進化があると思えます。ロータリーに「奉仕」が大事であることは言うまでもありませんが、日本のロータリーも、今や奉仕のうち、職業奉仕を除く社会奉仕や国際奉仕の方へウェイトが置かれすぎてはいないのでしょうか。親睦 (友情) と職業奉仕についても、皆さんのクラブでもう一度見直していただきたいと思えます。

- ところで、ロータリーの「親睦」(Fellowship) とは、どういうことでしょうか？
Fellowshipを「親睦」と日本語に訳したところに、親睦と親睦の準備行為 (ゴルフや旅行や仲間・同好会の食事会など) を誤解しているロータリアンが多いのです。Fellowshipは日本では、米山梅吉氏が言われるとおり「友情」とか「友愛」と解釈すべきではなかったのでしょうか。Fellowshipを「親睦」と訳したために、ロータリーにおける親睦と親睦の準備行為 (ゴルフや旅行や飲み会など) を誤解しているロータリアンが多くおります。
ロータリーにおいて「友情」を深める方法は、例会に出席して、例会でロータリーの理想、すなわち「人に対する思いやりの心」と「手助けをする心」を学び身につけることで友情を深めることを、ロータリーは期待しているのです。
それで「例会」では、お互いに声を掛け合い、相互扶助の暖かい人間関係を持って友情を深め、他の会員を思いやり、お互いに切磋琢磨し自己改善して「奉仕の心」を身につける人生道場が例会であります。例会は昼食をするだけのところではなく、ロータリーの奉仕の理想を学ぶところであり、また自己改善するところでなければなりません。

- 「奉仕」(Service) の意味の多様性について。
日本語の「奉仕」とは、自分以外の他人や公共のため、すなわち「人のため世のために」活動することですが、ロータリーの「奉仕」(Service) は、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕のそれぞれで多様な意味があります。
 - ・ 職業奉仕 (Vocational Service) は、ロータリアン個人の奉仕を、自分の職業を通じて社会に奉仕する意味であって、ロータリアン本人が「奉仕」した結果について受益者になるのです。
 - ・ 社会奉仕と国際奉仕の「奉仕」は、ボランティア (Volunteer) に近いserviceであり、その受益者は奉仕するロータリアン以外の人である。日本語の意味で言う「奉仕」、すなわち世のため人のためにすることが社会奉仕と国際奉仕である。
 - ・ クラブ奉仕の「奉仕」は、ロータリアンがクラブのために奉仕することである。すなわちロータリアンがクラブ会長や幹事を引き受けることも、また会員増強に努力することも、そしてロータリアンがクラブの運営管理が円滑に進むようにクラブに協力することもクラブ「奉仕」と

いうが、この「奉仕」はロータリーでいう世のため人のためにする「奉仕」の意味と違って使われることを理解すべきであります。これはロータリアンがクラブのために協力する「義務」を奉仕と言っております。

- 2, 例会の役割は何か。 — 「一業種一会員制の原則」は今、どうなったのか。
— 「例会は、毎週どうして開催する必要があるのか。」

- ロータリーは、ロータリアンがホームクラブの例会に毎週出席することと、やむを得ない事由があってホームクラブに出席できないときは、メイクアップすることが認められます。

しかし多くのロータリアンは、ロータリー年度の各半期間に開かれたホームクラブの例会総数の30%に出席し、またメイクアップを含めて各半期間において60%出席しなければ、その会員身分は、理事会が「正当かつ十分な理由があると認めない限り、自動的に終結する」という例外的な扱いを、最低の出席条件と誤解しているところがあります。ロータリアンは、やむを得ない事由がない限りホームクラブの例会に毎週100%出席することが強く要請されているのです。

ところでロータリアンは、どうして例会に毎週出席することが要請されるのでしょうか。

ロータリアンは例会に出席して何をすることが期待されているかといえば、それは「友情」を深め人に対する思いやりの心を学び、その思いやりの心に基づいた人助け(奉仕の実践)をする機会を学ぶのである。ここにロータリアンが例会に出席する意義があります。

- ロータリークラブは、創立当初から最近(2001年)まで「一業種一会員」の職業人が、職業上の情報を交換し、友情を深め自己改善に努力して、その結果、奉仕することを学ぶ場所が例会の役割であるとされてきました。したがって「ロータリーの例会は人生の道場である」と言われているのです。

例会が人生道場であると言われるのは、ロータリアンが例会においてお互いに切磋琢磨して自己研鑽に努める修練の場所であるからである。

ところが2001年規定審議会で一業種にロータリアンの正会員を5名、51名以上のクラブでは10%まで認めることができるように改正されましたが、これはロータリークラブが会員の基盤を維持するため自主的に決定することができるようになったもので、国際ロータリーが一業種に5名の正会員の増強を強制するものではありません。

皆さんのクラブで、独自に一業種一会員の原則を守るのか、それとも会員増強のために一業種に2名または3名、あるいは5名までを認めるのか、その決定をしてほしいのです。

ロータリーは、その地域によって、または世界の歴史や文化によって、いろいろと受け入れ方が違っております。一業種に5名までの正会員を認めたRIの決議は、ロータリーの多様性をRIが認めていることでもあります(第7条第2節)。

- ロータリークラブで「一業種一会員制」の原則を認めた思想的背景は、同業者の競争意識をロータリークラブに持ち込ませないためであり、同業種の対立によるロータリアンの仲間が「友情」を深めることが阻害されることを防ぐ意味があった。

ところが、ロータリークラブの創始当時のシカゴの社会は、今日と違って「商売は競争だ」、「競争には情け無用」、「儲かって何が悪いか」、といった利益が最優先された社会であった。もちろん同業者は敵とみなされ、同業者の一人が倒産すれば大喜びし、気がとがめるなどということとはなかった。

しかし現代社会は、当時と違って、事業または専門業者も倫理的な限界を保った競争社会であり、競争の中にも協調性が必要な社会である。このような社会構造の中でも、シカゴの当時

の社会と同じように同業者は対立し友情を深めることが阻害されるといえるのでしょうか。

このような従来の考え方が2001年規定審議会の決議によってなくなったと考えてよいのではないのでしょうか。この思想的な背景については、今日では同業者の対立をロータリークラブの運営やロータリアン一人ひとりの努力で解決できるものであって、会員の基盤を強化して、この対立を防ぐ努力をすれば同業者の対立は避けられるのです。この点、日本の古典的なロータリーの思想からは否定的な意見が多いのですが、日本でも同業者は対立するものであるから、「一業種一会員」の原則のロータリークラブを創設した当時の歴史的背景となった原則を、社会構造も変化し、また人間の意識も著しく変化した現代社会でも、そのまま維持することがロータリーの変えてはならないものなのでしょうか。日本におけるロータリーの発展・進化のために十分に検討しなければならない問題であります。

- 例会は、会員の服装については何も規制していません。

したがって例会に背広とネクタイを着用しなければならない規定はないのです。職種によっては、作業服を着て例会に出席することも、また作業現場からユニフォームを着て出席する場合もある。外国では軍人や警察官、消防士などユニフォームを着て例会に出席している人を良く見受けま

す。そして例会を1時間で無理して終わる運営には問題があります。例会を1時間と限定する規定は、どこにもありません。日本では、皆さんのクラブが、これまでの慣例を踏襲しているに過ぎないのです。

1時間では、1週か2週間ぶりに会った友人と友情を深め、情報を交換してロータリーの「奉仕の理想(心)」について語り合うためには短いと考えるときは、例会時間を1時間30分とか、2時間に変更することも、皆さんのクラブで独自に決定できるのです。

アメリカのロータリークラブの例会時間は、1時間30分が普通で、ヨーロッパや東南アジアのロータリークラブでは2時間、3時間の例会は多く、1時間で画一的に例会を終えようとするロータリークラブは日本が特別である。

例会時間についても、世界ではロータリーの多様性が強調されております。

- 日本のロータリークラブにおける会員の経済的負担は、このままでよいか。 — クラブ経費などの見直し。

例会は、昼食会や夕食会と組み合わせて開催するように理解されていますが、現在のRIの定款細則には、この取り決めもありません。

忙しい人たちが能率よく集まるために食事時間に食事を取りながら例会を開催した歴史的な慣習があるだけであり、食事抜きの例会も外国では珍しくありません。食事費込みで年会費を徴収することが普通になっている日本のロータリークラブの運営方法が世界では例外であって、これも今後検討すべきことでもあります。

日本とアメリカの会員1名あたりのクラブの経費は、食事を除くと日本のロータリアンがロータリークラブに支払う年会費は、アメリカのロータリアンがロータリークラブに支払う年会費の8.6倍です。

食事費だけを比較しても、日本の食事費はアメリカのその3倍です。日本ではロータリークラブの年会費が高いので、定年退職者などがロータリアンを続けられなくなっております。このような会員の経済的負担を軽減することも見直さなければ、日本のロータリアンが退会する傾向を防げないのです。

日本のロータリーも、70年以上の歴史があります。皆さんのクラブも、これまで先輩ロータリアンが支えてこられました。この人たちが高齢化し、定年退職され年会費が負担になって

いる現状を、先輩ロータリアンの素晴らしい体験と知識を皆さんのロータリークラブの発展のために活用するために年会費など経済的な負担についても再検討する必要があります。

- 日本のロータリーにおいては、例会開催の頻度に言及することはタブーとされております。しかし私は、ロータリーが21世紀も発展し進化するためには、この問題は日本でも避けて通れないと考えております。日本のロータリーの指導者に対し問題を提起して議論を深めていきたいと考えております。すなわち、ロータリークラブは、どうして例会を毎週1回開催する必要があるのでしょうか。どうして例会を月3回開催するのはダメなのか、またどうして例会を2週間に1回開催するのはダメなのか。日本においては、否、世界中で例会開催の頻度を、ロータリーが発展・進化するために変えてはならないのか。日本のロータリアンの考えと世界のロータリアンの考えは、この点についても著しい格差があります。日本のロータリーは、これからどうすべきでしょうか。皆さんが考えて欲しい。この問題について、ただ歴史を振り返るだけでなく、将来に向かった明確な答えがいただきたいのです。私が納得できればRIに対し強調します。

3、日本のロータリークラブはどうして会員が減少しているのか。

- 世界の会員減少は日本を始め、韓国、台湾、インドなどのアジア各国が最大に減少している。そしてアメリカも、オーストラリアも、ニュージーランドも、ブラジルも、アルゼンチンなども減少している。ところが、この一年間で会員が増加している国は、イギリス、アイルランド、スウェーデン、ドイツなどヨーロッパの国である。世界の会員減少の傾向にもかかわらずヨーロッパの国は会員が増加している。
- 2003年6月30日現在で、会員数の多い国は、120万人のロータリアンのうち、アメリカが世界の32%を占めています。日本は世界で2番目で9%（過去には10%を超えたこともある）、インドが7%、ブラジルが4.2%、イギリスが4%、韓国が3.9%である。
- その国の人口1万人あたりの会員数は、アメリカが1万人あたり15.6名、日本が8.4名、スウェーデンやノルウェーなどは人口1万人あたり会員数が30名を超えている。ただ日本でも第2800地区（山形県）は、人口1万人あたり17.7名で高くなっている。
- 女性会員については、世界全体で10.4%になっている。アメリカとカナダの北米では女性会員は20%に達しているが、日本では2.5%に過ぎない。
- 日本での2002年6月30日から2003年6月30日までに、1年間に9クラブが新しく拡大されましたが、10名以下に会員数が減少したため、2クラブがRIを脱会しました。このクラブは第2500地区（北海道）と第2680地区（青森県）であります。
- 2003年12月31日現在の全世界のロータリアン総数は1,211,723名、クラブ数は31,603クラブ、地区数529地区、加盟国数166カ国である。日本のロータリアン数は、106,612名そのうち、女性会員数は、3,109名、クラブ数は2,333クラブ（第2750地区のPBグループ8クラブ316名のうち、女性会員は59名も含まれている）、日本国内の会員数は106,296名、地区数34地区である。
- ところが、日本では2003年7月1日から2004年6月30日までの1年間で、約5,000名の会員が減少しております。この減少数はアメリカよりも多い数です。その主な原因は次のようなことになっております。

- ①仕事が前よりも厳しく多忙になり、例会に定期的に出席できない。
- ②健康上の理由により例会に定期的に出席できない。
- ③家族の介護や家庭の事情のため例会に出席できない。
- ④会員相互の親睦の欠如。
- ⑤クラブ例会の魅力の低下。
- ⑥奉仕プロジェクトやプログラムに興味と感動がもてない。
- ⑦クラブ会費や寄付などが負担である。

- RIが2001年7月1日から2002年6月30日までにロータリークラブを退会した日本の13,000名の元ロータリアンに対し、アンケート調査を行ったところ、その回答者の1,430名で60歳前半の人が退会理由と回答したのは次のとおりです。

- ①健康上の理由
- ②定年退職して仕事がなくなった。
- ③仕事や家族の事情のため例会に出席できなくなった。
- ④高齢のため、配偶者に痴呆が出てきて家を離れられなくなった。
- ⑤ロータリークラブの会費が高い、またその他の出費が高くなった。
- ⑥例会やクラブの会合にまとまりがなくなった。
- ⑦クラブの運営が会員から遊離している。また一部の人しか奉仕活動に参加していない。
- ⑧会員相互の親睦の欠如、例会の時間や場所が不都合になった。
- ⑨奉仕プロジェクトの内容に興味がない、また奉仕活動が地域のニーズに対応しなくなった。
- ⑩ロータリーの知識が足りなかった。

4、職業奉仕、特に職業における倫理化運動は、どうなったのか。

- ロータリアンから「職業奉仕はよく理解できない」とか、「職業奉仕は具体的に何をするのか」ということを良く聞きます。確かに社会奉仕は、社会に対する奉仕ではありますが、職業奉仕は、職業に対する奉仕ではありません。したがって職業奉仕について、次のような問題を時間がある限り一緒に考えてみたいと思います。

- ①職業奉仕は、どうすれば団体奉仕に馴染むのか。
- ②職業奉仕は、ロータリアン個人の責務か、ロータリークラブの責務か。
- ③職業奉仕には、テリトリーがあるか。
- ④職業奉仕は、誰のための奉仕か。
- ⑤社会奉仕や国際奉仕と重複するところもあるか。

まず「職業奉仕」(Vocational Service)という言葉は、日本の国語辞典(広辞林p992)を見ても出ていません。一 職業案内、職業意識、職業教育、職業指導、職業補導という言葉は皆さんが日常的に使っておられる日本語ですが、職業奉仕という言葉は「ロータリーの専門用語」であります。

「職業」(Vocation)とは、生計を立てるために日常従事する仕事、務め、家業、生業のことを言います。私たちが生計を立てるためには、職業で利益を求め、利潤を上げることも必要であります。

したがって職業は、私たちが生きるために必要な所得・収入を得るための手段であって、これは自分のためにするものであります。これは「打算」の世界の経済行為である。

ところが「奉仕」(Service)とは、日本語の意味では自分の利害を離れて自分以外の他人や

公共のために自分が犠牲を払うことであります。商人が損を覚悟で客のために尽くすこと、サービス、という「世のため人のために」することです。「奉仕」は、自分以外の人のためにすることであり、自己犠牲を伴う活動であります。これは「愛」・「仁」・「慈悲」の世界の行為である。

従って日本語においては、職業と奉仕という言葉は、その意味の方向性が全く正反対の言葉であり、本来は相反する言葉である。この相反する二つの言葉を合成して「職業奉仕」という一つの言葉にしたために日本では職業と奉仕のそれぞれの単語の持つ意味が合成された職業奉仕の意味を一層複雑にしており、皆さんが誤解される原因になっております。この点を十分注意して職業奉仕を理解していただきたい。

- そこで「自分のためにする職業」が、どうして「世のため人のためになる奉仕」と言えるのでしょうか。

すなわち金を儲けることが、どうして同時に世のため人のための奉仕になるのでしょうか。

ロータリークラブが、職業人の集団である以上、会員の事業の発展と安定、利益の向上を図ることが、ロータリー活動を維持し発展させるための前提であります。ロータリー活動をする限り、会社の経営や商売が倒産しても良いというものではありません。会社の商売が良く行って始めてロータリー活動も熱心にできます。

世間で発展する事業の根底には、お客や取引先や下請負業者や従業員の立場を十分に配慮したサービス (Service) が必要がなされています。

不正や不道德や世間に受け入れられないような方法で、一攫千金の利益を夢見たり、会員間の相互利益だけを上げるような姑息な手段を使うのではなく、「自分の事業の永続性のある発展は、お客や取引先や下請負や従業員などの、自分の周りの人たちの幸福を配慮しながら適正な方法で合理的な限度の経済的な利潤を確保することによって初めて得られるものであります。」(アーサー・フレデリック・シェルドン)

したがってロータリーは、原則としてロータリアン個人の職業活動のことを「職業奉仕」というが、ただ、このことがロータリークラブの「職業奉仕」を否定するものではありません。ロータリークラブの職業奉仕は、ロータリアンに対する教育的な模範として、例外的ではあるが、次のようなプロジェクトが認められる。

職業相談会、就職指導相談、短期見習研修、職場体験、職業訓練、職業紹介センターなど。

- 企業は儲けなくては生きて行くことができない。したがって「企業の根底には儲け」がある。しかし、それにもかかわらず、ロータリーは「企業の根底に奉仕の理想を置く」と強調している。ロータリーは企業における儲けを否定してはいません。

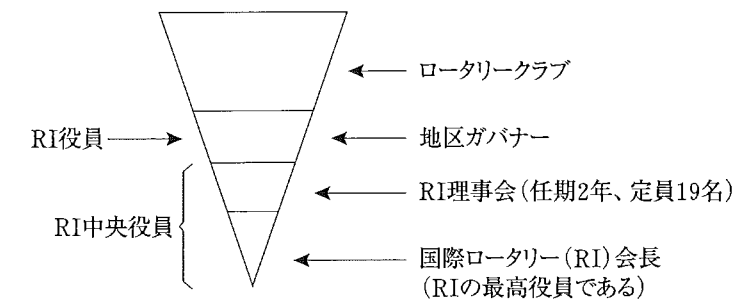
例えば、ある商人が100円で仕入れた商品を10万円で販売したとすれば、その商人はほろ儲けをしている。そしてこの商人は大変幸せになります。ところがそれを買わされたお客さんは、限りなく不幸になります。ロータリーは、商人として、また企業経営者として適正、合理的な値段で商品を製造し販売して幸せになることを期待されている。またお客も適正な値段でその商品を買って幸せになってもらう。その調和点がどこにあるのか。この調和点を求めて行くことがロータリーの「奉仕」だと考えるのです。

決議23-34号の第1項に「ロータリーとは、利己と利他との調和を目的とする人生の哲学である」と言っておりますが、この「利己と利他との調和」こそが、ロータリーの綱領の本文にある「有益な事業の基礎に奉仕の理想を置く」ということと同じである。

「世のため人のため」「いつも相手の身になって考える」「思いやりの心」このような「奉仕の理想」を日常のあらゆる経済行為などに適用すると、その結果は一時的に利益が少なくなっても、大きな信用や信頼という精神的な利益を得て、また結果的には経済的な利益を得ることに

なる。このことが「最もよく奉仕するものは最も多く報いられる」(He(they) profits most who service best) ことになる。

5、国際ロータリー (RI) とロータリー財団 (非営利法人) の関係



- ① 国際ロータリーは、世界中のロータリークラブの連合である。(2001年度手続要覧 p47)
- ② ロータリーとは、人道的奉仕を行い、あらゆる職業において高度の道徳的水準を守ることがを奨励し、かつ世界における親善と平和の確立に寄付することを旨とした事業及び専門職に携わる指導者が世界的に結び合った団体である(2001年度手続要覧 p47)。
- ③ ロータリアンとは、それぞれのクラブの会員である。
- ④ 国際ロータリーの使命と目的(2001年度手続要覧 p47)。

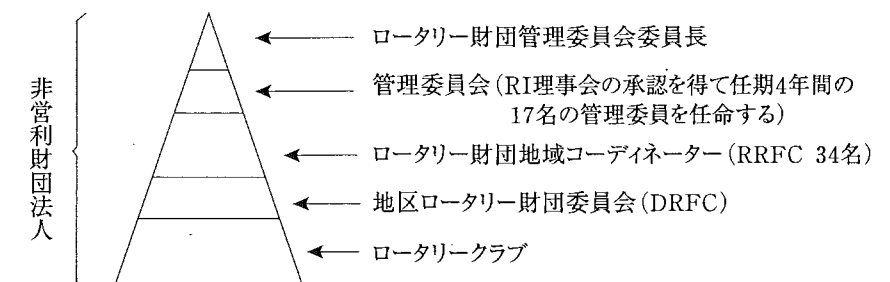
- 国際ロータリーの使命 (The Mission of Rotary international)

国際ロータリーの使命は、加盟クラブによるロータリーの綱領遂行を支援することにある。

すなわち：

- ・加盟クラブの結束を育むことによって：
- ・世界くまなくロータリーを充実、発展させることによって：
- ・ロータリーの活動を世界中に知らせることによって：
- ・国際規模の管理体系を用意することによって：

6、国際ロータリーのロータリー財団



RI 定款第12条とRI細則第21条に規定されている国際ロータリーのロータリー財団は、アメリカのイリノイ州の法令の下で非営利財団法人となっている。

- ① ロータリー財団は、財団の法人設立定款及びRI細則に従って、ロータリー管理委員会が慈善的、教育的目的のためにのみ運営するものである。
- ② ロータリー財団の使命と目標(2001年度手続要覧 p149)。

- ・ロータリー財団の使命は、地域レベル、全国レベル、国際レベルの人道的、教育的、文化交流プログラムを通じて、ロータリーの使命を遂行し、かつ世界平和を達成しようとする国際ロータリーの努力を支援することである。
- ・ロータリー財団の目標は、博愛、事前、教育または人道的という特質を持つ明確かつ効果的なプログラムの促進を通じて、さまざまな国の国民の間に理解と友好的関係を助長することである。

③ ロータリー財団のプログラムと資金調達について。

- ・ロータリー財団のプログラムと資金調達は「車の両輪」といわれております。
- ・ロータリー財団は、誰のためにあるのか(財団の役割は何か)。
- ・今、なぜロータリー財団か。
- ・ロータリー財団のプログラムと資金調達が、どうして誤解されるのか。

7、国際ロータリーの多様性について

① 私たち日本人は、自分で何かを「無から創造する」ことが、どうも苦手な民族であります。明治維新以来、思想は外国から来るものだと思込んでおります。

これは明治維新以前の宗教についても同じ考えであります。仏教も、儒教も、キリスト教も、日本の思想は、みんな外国から来たものであり、それに日本人は慣れてしまって何の抵抗も感じないでいる。

ロータリーの思想も、20世紀の初めにアメリカで創始されたものを、米山梅吉氏らがアメリカから導入されたものであります。

ところが、日本人は誠実・勤勉で外から来た思想にもすぐ同化し自分の思想として取り込むことが得意で、またそれを発展させる能力は世界的に優れております。

② ロータリーも、今、日本において、日本特有の思想を形成しなければならない時代にきております。このこと自体は世界のロータリーの発展のためにも、日本のロータリーが多様性を持って日本の歴史と文化と生活習慣に従って発展することで悪いことではありません。

しかし、これまでの世界の画一的なロータリーに慣れ親しんで来られたロータリアンには若干の抵抗感があるかもしれません。ところが従来のロータリーに執着しすぎて新しく導入しなければならないことや改革しなければならないことを冒険として避けたい気持ちが強くなると、よきロータリアンが育たなくなり、組織と制度も疲労してロータリークラブは沈滞し、進歩発展のないものになって若い人たちに魅力を失ってしまうのです。そのために皆さんのクラブで、現在の社会でロータリーとロータリアンが、どんな役割を持つ必要があるのかを今一度一緒に考えてみてほしい。

③ その結果、ロータリー財団も、現在の社会におけるロータリーの多様性は、どういうものか。画一的な運営やプログラムをなくするためには、どうすればよいか。

皆さんのクラブで多くの会員が、ロータリー財団プログラムに参加し、その資金調達に感動的に行動するためには、どうすべきかを、今一度一緒に検討してほしい。